

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人 実寿穂会		
事業所名	グループホーム ポート野芥		
所在地	福岡市早良区野芥八丁目7番1号		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果確定日	令和2年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様の好きなことが出来、やりがいを持つことで楽しい時間を一緒に見つけていく中で、お思いを知り、楽しく出来ること・楽しくやりたいことを一緒に過ごす中、毎日に目的があり活き活きと楽しむ事で、笑顔にあふれ充実した毎日を過ごす。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポート野芥」は、閑静な住宅地の中にある平屋建ての2ユニット事業所で、開設後4年半を経過した。母体法人は福岡・長崎で複数の介護事業を展開、福岡でもグループホームをもう1ヶ所(合同で運営推進会議などを行う)の他、特養やサ高住を運営する。当事業所については、2年前に「今を生きる」という理念に変更した。取組としては、「24時間暮らしのシート」を活用して各利用者だけの生活のリズムを確立してそれをサポートしたり、また日常生活の中で個別に目標を定めてその達成を目指し、その実現後は次の目標を設定したりする(「夢実現プロジェクト」)ところに工夫が見られる。入居者が一日一日を、目標や生きがいを持って楽しく過ごすことを念頭に置いて、日々の充実を図っている。職員も研修などを通してレベルアップをめざしながら認識を共有、地域の認知症を支える事業所として一丸となって取り組んでいる。今後も期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「今を生きる」を基本に、各ユニットのごとに目標を設けている。施設理念は事務所の目の触れやすい場所に掲示しユニット会議などで共有し実践している。管理者による、職員研修の際に理念について説明する場面を作って、理念の共有の理解を深めるようにしている	約2年前に、現在の「今を生きる」という理念に変え、併せてその中で目指していく役割を改めて掲げ、また年度ごとに各ユニットでの目標を設定している。理念は事務所に掲示されており、職員にも十分浸透している。理念を共有することで、日常的なケアの実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事、公民館で行われる教室に定期的に参加し交流を行っている。公民館のサークル活動に、入居者が参加をしている。地域の子供会などに協力していただき、行事ごとを施設で行っている	事業所が開催する夏祭りや敬老会には家族や地域の方も招き、また餅つきなどの地域の行事には入居者も参加する。地域の文化祭に入居者の作品を個展としてブース内にて出品している。ボランティア(漫談や音楽演奏など)の受入や子供会との交流なども行われている。公民館でのキャラバンメイトの講師の受託も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に来て頂くだけでなく、催し物を通じて、認知症の方と触れ合う機会を作っている。今年度から、サークル活動を入居者の方に参加していただき、地域の方に、温かい対応していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開き、入居者の状況やサービス提供などの事業報告を行っている。家族、地域の方の情報交換できるようにしている	法人内のもう1ヶ所のグループホームと合同で開催、2ヶ月ごとに会場や担当者は交替する。自治会長、公民館長、薬局などの他、入居者家族の参加もある。入居者やサービスの状況の説明、様々な立場からの提案や意見交換を行い、情報を共有することで、サービスの向上につなげようと努める。全家族に出欠の打診は行うが、欠席者に対する議事録の送付は個人情報遵守徹底の観点からも控えており、面会などの席上で内容を職員より伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加は無いため、運営推進会議議事録や広報誌を送付し現状把握してもらっている	運営推進会議への参加はないが、案内は行い、議事録や広報誌の送付は行っている。介護保険の認定更新も郵送となり、役所への訪問の頻度は減りはしたが、報告書類の提出、困難事例の相談、入居申込に対する対応などで、良好な協力体制を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	24時間シートを作成し、本人の意向と好み、出来ることに対して、サポートする場面を分け、施設都合のケアを行うのではなく、根拠のあるケアを行っている。見直す場面を作り、随時変更も行っている。玄関は、日中常に関開けている。	身体拘束防止委員会(月1回開催)を設置、外部研修やユニット会議などで学習、肉体的・精神的虐待やスピーチロックも含めて拘束のない生活の実践に努める。玄関は、片方のユニットは開錠も可能な電子ロック式の扉、もう片方は施錠なし(開けっ放し)の状況で、離脱の傾向を急に煽らない事が基本と話す。24時間シートの活用により、職員が各利用者に対してさりげなく注意をする事で、穏やかに過ごす事ができている。	

2020.2自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画作成担当者に、事故ならびにリスクマネジメント研修を行い。計画作成担当者による、OJTにより職員に伝えて言っている。職員は「虐待の防止について」の外部研修に参加、ユニット会議で伝達講習を行い虐待が見過ごせられないよう防止に努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を活用されている入居者が2名おられる。施設入居の際に、成年後見制度の活用と役割を出来るように支援している 成年後見制度の説明は、管理者で行うようにしている	現在、成年後見制度を2名(うち1名は事業所側から提案した)利用している。職員は研修に加え、実際のやりとりなどを通じて、制度への認識を深めている。パンフレットなどの常備はしていない(随時用意)が、今後必要が生じた際にも適切な説明や対応ができるような体制は整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居しおりを作成しており、契約時に説明を行っている 契約時は重要事項説明し了承を得たうえで契約している また制度改正がある場合などは再度説明し同意を得るようにする		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している 日頃から家族の方には入居者の状況報告している 家族には、ご意見や要望を伺うよう努めている 顧客満足度のアンケートを実施している 顧客満足度アンケートについては、ホームページに掲載をしている	「夢実現」を事業所のテーマにしており、職員は本人や家族の思い・希望(夢)を日頃から積極的に聞いて、それを実現しようと努めている。家族に協力を求める事も多い。投函は見られないとの事だが意見箱は設置しており、また年1回独自の満足度アンケートを行う。利用者や家族の意見は、夢実現の機会を増やすのに加え、事業所の運営に反映させるためにも、非常に重要と捉えている。	これまで家族会はなかった。日頃の家族の訪問・面会は多く、その都度家族同士で互いに話をしている場面もあるとはいえ、運営推進会議への積極的な参加までには至らず、また事業所側にも意見や要望をさらにすくい上げたい意図もあって、今後家族会を年2回開催していく計画がある、と聞く。利用者の日常を見ていただく機会にもなる事から、ぜひ成功して軌道に乗せていただきたい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同法人の全体会議に職員が出席し意見や提案を述べる機会を与えている	ユニット会議などの定期開催時にこだわらず、入居者本位の取り組みに繋がるだろうと思われる事は、速やかに提案、話し合いの機会を持って改善につなげている。管理者らへの話もしやすい雰囲気、環境にあり、また提案された側も結論を出すのに時間をかけないようにしている。管理者との個別面談もなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が年間目標を設定し半年に1度面談を行い達成状況や勤務状況の確認を行い働きやすい職場環境に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代から70代の職員が働いており、男女の区別なく雇用 面接で、介護の関わり方、考え方、向上心等を考慮して採用している。個人目標を立ててもらい目標に向けて働けるよう、アドバイスや研修への参加を促進している	職員は20～70歳代で層が厚く、男性職員の比率が高い。入居者が安心してコミュニケーションができ、不穩にさせない事に繋がっていると自負している。職員それぞれが能力や特技を発揮して活躍している。職員の休憩時間・休憩場所の確保、研修会や勉強会への参加や資格取得にも理解があり、職員が働きやすい環境が整っている。	

2020.2自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習に参加、人権にかかわる虐待等の外部研修を受講、人権啓発活動のビデオを見て勉強している	利用者一人一人に対する尊厳について、職員が外部での人権学習に参加する他、法人が作成したVTRを利用して幹部職員向けの研修を法人内部にて行っている。いずれも参加した職員からのフィードバックを行う事で、理解を共有し、認識を深めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標を設定し、個々の能力に応じ、互いに確認出来るようにチェック表を作成している。必要と思われる外部研修の受講や法人での研修を積極的に行い、向上を図っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設のポート賀茂の管理者・計画作成担当者に相互訪問などを行い。お互いに質の向上について相談を行っている。グループホームのネットワークに参加し意見交換や交流の場となっている。他事業所のグループホームの運営推進会議に職員が参加している		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「本人の思い」を確認するために、24時間暮らしの情報シートを家族に記入していただいている。施設にはいっても、暮らしの継続が出来るように、入居前に訪問調査、情報収集を行いご本人の要望に対応できるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、可能な方はご本人にも見学に来ていただき事前に楽しみや要望を聞きよりよい「本人の思い」をサービスに繋がるよう取り組んでいる 契約前のオリエンテーションで、ご家族とのコミュニケーションをとり関係作りに努め		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを根拠にし、家族と施設がチームになるために、入居者の未来が幸せな事を考え、今必要と思われるサービスを提案して行っている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の暮らしの継続の中で、「共に暮らす」という意識から、本人の役割を持ち、得意な事や楽しみを、教え合ったり励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを根拠に、ご家族との気持ちに寄り添い意向を聞きながら、ご本人を中心としたチームとして良い関係が築けるように心がけている		

2020.2自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思いを叶えられるように夢実現として、馴染み場所や、行ってみたいところへ訪問出来るようにしている	入居者それぞれの「夢」を掲げ、それに向けて実現を図る。自宅や墓参り、買物などに行ってみようという「夢」を、これまでのつながりや関係を途切れさせない事も念頭に、職員や家族も協力して進めていく。良い刺激にもなっており、今後も継続の方向。また、友人や近所の方が訪問されたり、一緒に出掛けたりする事もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットケアの食事の場など、入居者と職員の関わり居合いを大事にしたケアを行っている。入居者同士が会話できるよう職員が介入 また、洗濯物たたみ等をできる方は、一緒に職員としながら支え合える環境作りをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族へ連絡をして様子を聞くなどをしている。転居先の、特別養護老人ホームなどに面会を行いケアの継続についても、家族などにアドバイスを行っている		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、24時間暮らしの情報シートを使い、ご家族へアンケート調査を行っており、その情報をもとに今までの暮らしと変わりがないように努めている	入居時より、本人、家族には事業所としての方針(できること、できないこと)を説明し、理解を得ており、独自作成の24時間暮らしの情報シート(1年毎および状態変化時に見直し)を家族にも協力してもらって作成している。日々の生活の中で、利用者一人ひとりの何気ない言葉、仕草や表情から、希望や意向を逃さず把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの継続を知るために「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」で情報を集め、それを、自宅といたときと同じ時間の流れを、日々の暮らしの中に取り入れ生活を送れるようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している また、入居者の表情や言動を注意し現状の把握に努めるようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や申し送り等で出た意見を検討しそれをもとに、24時間シートに反映、更新を行い現状にあったケアができるようにしている	職員1人が3～4名の利用者を担当、状態変化等があればその都度24時間シートに内容を追記・修正する。それをもとに月1回担当者がモニタリングとしてまとめ、ケアマネジャーに状況報告をする。ケアマネジャーは本人、家族、医師や医療のデイケア(1名利用)等に聞き取りを行ったうえで、ケアプランを作成(見直しは年1回および状態変化時など随時)する。職員全員が内容を理解、把握し、プランに沿ったケアを行っている。	

2020.2自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入 気づきがあれば申し送りノートに記入し職員同士で話し合い情報を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調や状況に応じて食事の形態を変更している。好きな物を提供しており、その時に合った食べる楽しみの提供を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店に買い物に出掛けたり、行事や公民館サークル活動に参加を行い楽しむ機会を支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により提携の訪問診療、訪問歯科と契約 日常の様子や体調をクリニックへ報告し連携を図っている	入居時に本人、家族に説明、相談し、希望のかかりつけ医を決めるが、現在は全員が、精神科もしくは循環器内科の提携医を選ばれ、定期的な訪問診療がなされている。提携医は相談しやすく、必要時には医師から家族へ報告してもらっている。他科(眼科・整形外科など)受診は基本的に事業所が支援、家族が行う場合も職員が同行する。家族の安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携のクリニックの看護師や訪問看護師と電話やFAXで相談や助言をいただいている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中の本人の不安を少しでも軽減できるように、スタッフ、管理者がお見舞い行くようにしている。状況を見ながら、ドクター・ソーシャルワーカーと退院を含め今後の方向性について、話し合っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明と提案をしている 看取りの介護計画を作成し、方針としてご本人にとって最善な方法をご家族と一緒に考え、主治医と連携を密にとっていく	これまでに3名の方の看取りを行っている。事業所としては、今後も医師と連携のうえでできる限りの支援を行うという指針があり、職員もその認識を共有している。入居時に本人、家族に対して説明し、書面にて同意を得るが、状態変化に伴い、現状を説明、家族の意向を確認し再度同意書を交わしている。職員は、これまでの看取りの経験を踏まえ、内部での研修を行い、知識、意識の向上に努めている。	

2020.2自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており職員の目に付くところに張り出し、直ぐに対応できるように周知徹底をしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行う 消防職員立ち会いのもと通報装置の取扱いや水消火器訓練を実施災害時の備蓄品を備えている自治会長にも相談を行い。避難の方法などや情報の共有などを行っている	災害時のマニュアルあり、年2回(日中・夜間想定、近隣住民参加もあり)で防災訓練を行い、消防署への報告も行っている。水消火器使用訓練やADEによる救命訓練もあり。水、米、カレー等非常用食料なども備蓄品として備え、地域へ向け事業所を避難場所として利用できる旨の話も行い、地域との協力体制を築いている。	
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけをしプライドを傷つけないように心がけている プライバシーの確保に注意し、記録などの個人情報取り扱いの徹底に努めている 家族に日常の状況報告の際は、別室にて行う	接遇マニュアルに基づき、日頃より、利用者の方一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮した接遇に努めており、また研修も行われている。利用者によっては「〇〇くん」と呼ばれた方が、安心して穏やかに過ごせるため、家族の了承を得て、尊厳等にも十分に配慮したうえで対応を行っている。写真等の個人情報の取り扱いについては入居時に説明、確認し、書面にて同意を得ている。使用済みのオムツ等も利用者等にわからないようバッグに入れて処理を行う等細かいことから日々気を付けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に対して職員が聴き、日常の会話からできることや、やりたいことを自己決定できるように支援を行っている 晩酌や喫煙なども制限は行っていない		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床・朝食など入居者の状態に合わせて声かけ、しっかり覚醒してから食事を提供している 一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際は、声かけにてご本人に選んでいただく、整容に関しては髭剃りや化粧などを支援し、身だしなみに気をつけ、その人らしさが保てるようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、業者から納入している。入居者と職員と一緒に盛りつけや食器洗い、テーブル拭きなど一人ひとり出来ることを手伝っていただいている 食べたい物があるときは、外出支援として、食事に出かけたり、ご家族が持参されたりと食の楽しみを提供出来るよう心がけている	業者からの配食サービス(調理済み食材)を利用、事業所内では御飯を炊いている。血洗いや配下膳などは利用者も一緒に行う。療養食(なるべく他者と同じ物を、との事業所の方針あり)や形態(刻みやムース食など)、好き嫌い(代替食事を準備)の対応もできる。誕生会、夏祭り、忘年会等には事業所内で手作りをすることや、畑でとれた野菜を利用することもある。個別で外食したり、家族が作った食事が食べたいとの希望で家族持参の食事を摂られたりもする。日々の食事を楽しむことができるよう支援している。	

2020.2自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、一日のトータルが解るようにしている。病状等により水分制限のある方は職員間で情報を共有し支援をしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア加算を算定している 訪問歯科医による口腔ケア講習を全職員受講し、入居者一人ひとり毎食後ご自身で歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認し磨き残しがないようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから、コットンパンツに移行できるように、入居者を定時に誘導するのではなく、本人の排泄パターンに合わせて声かけを行い、失敗や失禁が少なくなるよう支援をしている	24時間シートを活用し、日々の排泄チェックを行い、利用者一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握している。見直しが必要な場合は、その都度、職員間で話し合い、申し送りノートで情報を共有し、支援を行っている。支援により、紙パンツから布パンツに改善できた利用者もおられる。排泄が自立している利用者に対してもプライバシーに配慮し排泄確認を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄委員を主体に、便秘改善のための運動、水分量の確保、便通を良くする食事など工夫している。オリゴ糖やセンナ茶など、体に優しいもので排泄を促せるように支援を行っている。入浴時やベッド上で腹部のマッサージを行うなどして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日程は決めてはいるが、入居者に伺い決定していただいている。夜間以外はお好きな時間に入っていただけるよう支援している。毎回、お湯を入れ替え、湯温や時間は入居者の希望に添えるようにしている。	ユニットごとに配置、浴槽脇のベンチは可動式で、三方向から介助ができる。個浴で、基本は週2回だが、希望があれば毎日でも入浴できる。湯は毎回入れ替え、季節によりゆず湯や菖蒲湯が楽しめ、好みのシャンプーや入浴剤も使用できる。脱衣所には暖房あり。毎回皮膚等全身の観察を行いながら、コミュニケーションをとって、入浴が楽しめるよう支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前から、家族にはユニットケアの考え方をしおりを使い説明を行い「暮らしの継続」の説明を行っている。24Hシートを活用し、自宅と同じような環境作り、生活習慣の持続が出来るよう心がけている。日中の活動状況に合わせ休息できる時間を支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携を取り、薬の一般化や錠剤が服用できない方は粉末にしている。薬の効能や副作用の注意点、薬の変更など職員間で共有し確認を行っている。薬局に、薬について研修を行い、職員の質の向上に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの継続が出来るように、本人の意向・好み・出来ることを支援している。本人の思いから「夢実現」につなげている		

2020.2自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から入居者の思いをくみ取り、夢実現という形で月に一度は買い物へ出かけたり食事やドライブに出かけている。玄関のしつらえを行い、ベンチなどを設置している。	利用者一人ひとりの「夢(希望)」を実現するため、カラオケや買物、公園への散歩、ドライブ等、個別に外出支援を行い、その実現(達成)後はまた次の目標の実現を目指す。夢によっては家族に協力してもらうこともあり、又、外出が難しい方でも、テラスで一緒に洗濯物を干したり、のんびり外気浴を行ったり、といった支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があればお金を所持することが出来る。、買い物や外食の際、所持金より精算していただけるよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時の契約の際、ご家族との連絡の件を話し合い、入居者が家族とお話がしたいときは、電話をかけることが出来るように支援している。携帯電話をお持ちの方もおられるので、通信の制限は行っていない		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の場、くつろぎの場、記録の場と分けてしつらえを行っている 入居者に合わせているため、ユニット間でも同じ配置を行っていない 食堂のテーブルの配置、リビングでくつろげる空間作りを行っている。季節の花を活けたり、オルゴールや昔の名曲の音楽を流す際は音量に配慮している	平屋建て事務所を挟み、各ユニットが配置されている。ホールには吹き抜けやテラスがあって開放感があり、日差しも降り注ぐ。ユニットごとに「和モダン」「(緑のある)洋風」をテーマとした空間づくりがされており、異なるコンセプトのもと、2月下旬の訪問時には、お雛様の他、和の小物が飾られたり、観葉植物が置かれたり、といった配慮がなされ、季節を感じ居心地よく過ごせるような工夫が見られた。音や臭いなどにも常に気を付け、利用者が不快な思いをしないよう配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場、くつろぎの場、記録の場と分けてしつらえを行っている。入居者に合わせているため、ユニット間でも同じ配置を行っていない、好きな空間で気の合った入居者同士話が出来るよう椅子やソファを配置している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から、家族にはユニットケアの考え方をしおりを使い説明を行い「暮らしの継続」の説明を行っている 入居時、馴染みのある物を持って来ていただきできる限り自宅に近い環境となるよう、ご家族に協力していただいている 暮らしやすいように入居者、ご家族と相談し部屋配置を考えている	広めの居室は全室フローリングで色調は明るい。電動ベッド、エアコン、カーテン、クローゼットが備えつけられている。鏡台や仏壇、テレビ、冷蔵庫、農作業に使っていた道具、ギターや三味線等、利用者それぞれが使い慣れた物、馴染みのある物を持ち込まれ、これまでの環境と同じように落ち着いて穏やかに過ごせるよう工夫されている。居室の表札は担当者が書いた物(毛筆)が使われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を中庭で干せるように設置している。入居者が洗濯物を干したり、乾いたのを確認でき取り込めるように支援している 全面に手すりを設置しバリアフリーとなっている		